

IEEE 広島支部設立 20 周年記念シンポジウム 「広島支部 20 年の歩み」講演録

■ 雑元 孝夫 先生（広島大学・名誉教授、元暫定支部長）



広島大学を 9 年前に定年退職いたしました雑元です。本日はお招きいただきまして、まことにありがとうございます。これからしばらくの間、当時としては日本でただ 1 つとして存在していた IEEE 支部である旧東京支部が 1998 年に、事業計画の 1 つとして、企画した新支部設立構想からスタートして、それから、現 IEEE 広島支部が発足する

までの間の経緯についてかいつまんでお話しさせていただきます。20 年前にタイムスリップした感覚で聞いていただければ幸いです。

まずですね、私がですね、新支部設立検討委員会のメンバーになった経緯についておはなしさせていただきます。

旧東京支部のバイスチェアであった大野さんからですね、1997 年の 12 月にですね、広大の私の研究室に電話がかかってきて、実はですこういう、新支部設立構想があったということで、協力してもらえないかという電話がありました。私は、よろしいですよと返事をしたことがあります、大野さんはですね、三菱電機の重役をされていた方で、それよりさかのぼること数年前にですね、大野さんが計測制御学会の会長をされていたんですね。そういう時に私は大野会長のもとで理事をしておりましたので、そういう関係で面識あって私のところに電話をされてこられたんだと思います。

こういった問題は、私の一存で決めるわけにも参りませんので、広大の第二類電気系の類会議においてですね、こういう話があって、協会から新支部設立検討委員会のメンバーをだしてほしいという依頼があるんですけども、どなたか引き受けてもらえませんかということを問いかけてですね。その結果的に、私がいっしょという関係で急遽引き受けることになりました。赤いっこで線で困っておりますように、広大電気系の教員会の結果、広大電気系教官からの全面的な協力が得られ、その後の仕事がスムーズに運んだということでもあります。

1998 年の 2 月にですね、東京支部の総会があったんですね。そのときの配布資料によりますとですね、98 年の東京支部事業計画の要綱にですね、新支部設立の検討ということが、具体化して、まあ、理事会でこういう審議を行ってですね、支部の具体化するために、新支部設立検討委員会を設立して、検討推進するという目的はそこに記載の 3 つがあるということですね。

分割を行う背景と目的というのが、その下に書いてありまして、東京支部が肥大化しているということで、全世界に300あるセクションの中で3番目に大きいセクションになっている。肥大化した東京セクションを分割して、学会活動の活性化を促し、会員の増強、会員サービスの増強を実現する、そういうことをしたいと、IEEEのニューヨークのIEEE本部とか、Region10でもですね、分割を推奨しているという背景があったようです。

その分割のメリットというのが、いくつかかいてありまして、IEEE本部やRegion10に対して、日本から多くの代表を送ることができて、日本の発言権が増大する。日本全体として、IEEE本部から提供されるの活動資金が増える、そういうこととか含めて、そこに記載するように、いろいろあるわけですね、5項目あるわけですね。

それで、新支部設立検討委員会が1会議で、総会の後の会議で、理事会では下記5分割案を最有力案として検討しているということで、そこにかいてある5支部がですね、北海道、東北エリアをカバーする仙台支部とかですね、それから、九州・四国・中国をカバーする福岡支部とか、そういうふうに分割案が示されましてですね、新支部の設立には、申請書の作成とか、セクションの規約の設定とかですね、それから、まあ、運営の財政基盤ですか、そうすることで、基本案をベースにしてですね、会員数とか収入予測とかを書いてあるのがその表ですね。こんな表を作成しました。

それで、検討委員会の設立ですね、構成員は全部で16名ですね。理事代表4名とか、チャプター代表4名とか、各地区代表8名ということになってますね。それで、全体会議をやって、それから今度はですね、基本案に示された5つのあの支部毎に証拠録を書いてディスカッションしたんですね。

我々は、福岡支部という案があったんで、九大の牛島先生とか、徳大の坂江先生と私の3人で、30分から1時間弱くらいの間、それぞれの証拠録について議論したんですけども、当然ながら、そこで結論が出るわけではありませんので、持ち帰って検討するということになりました。

持ち帰って、みんな半年くらい時間かけて、結論が8支部構想ですね、そこに記載されている、この8支部構成でみてみますと、会員数とか収入面では広島支部は、丁度中間のサイズですね。

それで、セクションを新設する前には、申請書がいりまして、そしたらセクションの名称とか、50名以上の正会員の署名とか、それから、テリトリを表示するとか、それから、そこに書いているようなことがあるわけですね。それで、もうみなさんよくご存じのように、必須事項として、年5回以上の会合とか、25名以上の正会員の維持とか、IEEE規約に基づくセクション規約の制定とかあるわけですね。

ほんで、とりあえず、申請書をつくれという指示があったんですね。それで、広島セクションという名前にして、中国5県をテリトリとして、署名とかを集めたんですね。それがだいたい広島大学と岡山大学で集めました。それで、申請書を東京支部の

方におくって、東京支部がこれを8つの支部のをまとめてですね、IEEE本部におくったんですね。

その結果、私のところに、各支部にきたと思いますが、広島セクションは、承認されましたよ。それでこのセクションの設立の有効日というのは、1998年の11月14日ですよ。それで、あなたをInterim Chairとして記録していますよという回答を得ました。これでですね、セクションが承認されたので、規約をつくる必要があるということで、雛形があるので、それを参考にして、広島セクションにあうように、多少修正して、つくりました。

これはですね、また、旧IEEE東京支部におくって、東京支部が8つの支部のまとめて、IEEE本部におくったわけですね。それで、承認されまして、最後の設立検討委員会が開かれまして。これは1998年の2月ですけどね、ここで、まとめをされて、まとめをした資料を配りました。これがですね。

それで、あとはですね、支部役員候補者の公告ということで最後にありまして、それで1999年の2月にInterim Chairの名前で、中国地方のIEEEの会員にe-mailでおくりました。これにかいているように、Chairとか、Vice Chairとか、Treasurerとか、Executive Committee memberとか書いてですね、この時に、Executive Committee memberとかは、私の方であらかじめ決めておいて、市川先生に広大で当時一番最長老であったので、お願いしたんですけども、最初の日は断られたんですけども、次の日の朝になって、もう少しセクション運営について聞きたいということになって、急遽引き受けていただいて、それで、Vice ChairとSecretaryは、市川先生は公募にされたんですけども、Secretaryだけ候補があって、Vice Chairはなかったんですね。山口大学の田原先生から粟井先生はどうかということで、市川先生にお知らせして、市川先生が粟井先生に電話をかけられて候補者になられたという経緯がありました。

でですね、いよいよ、第一回の総会を開催する案内をだしてですね、1999年の4月30日に広島市内の鯉城会館で行いました。議題はそこに記載されているように、3つでありますけども、当時に、IEEE認定された支部役員というのはInterim Chairの私だけだったので、最初の2つの項目はですね、私が中心になって、議事を進めて、それで、役員が選出された段階で市川先生にバトンタッチして、事業計画と予算の承認審議をしていただきました。それで、これでなんとかおわってですね、講演会がありまして、山口大学長の廣中平祐先生にお願いしたんですけども、当日ドタキャンがありまして、開けず、市川先生の方で少しお話しをされて、なんとか格好をつけて、無事におわったような状況であります。

以上、バトンタッチして、市川先生、それにみなさんががんばっていただいて、だんだんにいい支部になったのではないかと思います。どうもご静聴ありがとうございました。

■ 角田 良明 先生（広島市立大学・教授、第5代支部長）



ご紹介頂きましてありがとうございます。第5代支部長ということなのですが、実は初代の幹事も務めておりました。あと2代目の副支部長も務めており、そういう意味では非常に深く支部活動に関わってきています。今回は特に IEEE 広島支部としての活動としては、IEEE 広島支部学生シンポジウムの話をしなれないといけないと思ひ、それを中心にしなが、最後に大学教

育への貢献について触れたいと思ひます。

略称が HISS といひます。広島支部学生シンポジウムといひことです。これは、広島支部が創設した後すぐに開始したといひことで、それが最大の特徴です。そういう意味で、広島支部の 20 周年でもありますが、第 20 回の HISS が開催されることになリます。

最初の支部長は市川先生で、私は幹事です。そして第 5 代の時に私が支部長を務めておリます。

HISS は学生が企画運営するといひ独創的なシンポジウムです。それで誰がやってくれそうかといひことで、うちの大学で探して、神成君といひ学生がいまして、今日来られている石田先生のところの学生だったのですが、その学生に依頼したといひことです。その学生は非常に活発に活動してくれました。そして、これはシンポジウムのパンフレットに掲載されている最初の冒頭挨拶部分ですが、学生の挑戦がテーマです。学生の学生による社会のためのイベントといひことです。特徴が二つまとめてあります。学生が主体となつてシンポジウムの企画運営を行うといひこと。また、研究発表の仕方が登壇式といひ形では無く、質問主導型の発表形式にしたかったため、すべてポスター講演といひことにして、自主的に発表して、興味のある方が来たら回答するといひスタイルです。このような形で進めたといひことです。

それで、第 1 回の HISS の会場は広島県立総合体育館といひ広い場所で実施しました。結構、大学から学生有志が集まってくれました。かなり最初苦労しました。なぜかといひと、前例が全くないといひことで、何をすれば良いかといひことを考えて実行したといひことがまず第 1 点です。それから、2 つ目は開催時の資金、これは非常に重要なことです。それで何をしたかといひと開催のための寄付活動をしました。学生も企業に対してしましたし、我々もバックアップのために各大学でしています。（参加費に加えて）このように寄付を集めて実施したといひことです。この二つが思ひ出されます。最後に集合写真を撮りましようといひことで、これが貴重な集合写真です。一番左が支部長の市川先生です。真ん中にあるのが神成君です。今は NEC でマネージ

チャーをしています。これが一日目です。ちょっと赤字でわざと書かせて頂きましたけど、テクニカルプレゼンテーションというのがすべてポスター講演です。広い会場にポスターを並べてですね、最近そういう形式の会議もありますが、おそらく 20 年前では珍しかったと思います。それとあと、パネルディスカッション、やはり議論する場を提供することということが大事ということでパネルディスカッションを行いました。そしてパネリストとして学生も参加しているということです。これは大きいです。これが二日目です。こちらにもテクニカルプレゼンテーションもありますし、パネルディスカッションもあります。この場合は、学生によるベンチャー起業ということで実施しました。

そして、今度は少し飛びまして、10 年経ちまして、10 周年を開催しようということで、HISS は 2 日間でやってきましたが、3 日間でやりましょうということで実施しました。おそらく 3 日間やったのはこの回だけです。まず記念式典的なものをうちの大学で実施しまして、2 日間は広島県立広島産業会館というところで実施しました。委員長はうちの大学の水本君、今はマツダに就職していますけど、頑張ってくれました。あとは、各代表、このあたりから各大学からの実行委員も増えました。1 日目は特別とつけたパネルディスカッションを実施しました。総務省や経済産業省などから招聘してディスカッションを行いました。それで、特別基調講演も実施しましたし、あとこの回は特別論文賞というものも創設しました。あと、特別パネルディスカッションとして、HISS の過去と未来についてということで、ここでも実行委員長の鳥取大学の学生さんに来てもらってパネリストとして加わってもらいました。2 日目として、パネルディスカッションを行い、ここにもやはり学生パネリストとして入ってもらいました。やはり文字通り学生が企画運営する形で進めました。これが 3 日目です。写真を紹介しますと、まず毎回、このような開催案内を作っております。あと、これは、当時の広島市長の秋葉市長と実行委員長の水本君です。あとこのあたりの方々には総務省や経済産業省から来て頂いていますし、それから副市長ですね。それで、これが実際の会場です。こういう形でポスター講演を実施しています。そしてこれが看板です。

あと、最後にですね、HISS は大学教育に貢献してきたということをお話したいと思います。私は現在、学部長・研究科長を務めていまして、高大接続改革というものの最中です。それで教育改革を推進していますけれども、学力の 3 要素をチェックしなければいけないということになっています。それが、今までは学力と言えば知識・技能だけだったのですが、思考力・判断力・表現力が加わりました。これに関して、この前、大学入学共通テストのプレテストが実施されていまして。それに加えて、課外活動ですが、主体性・多様性・協調性を学ぶ態度を教育しようというのが入っています。ここで言いたいことは、実は HISS はこれらを実行してきたということです。特に主体性と協調性をやってきたと。主体的に行動して、学会の企画運営を行い、実際

に実行委員会を束ねて学生が協調して学会を実施しましたということです。そういう意味では、まさに主体性・協調性の教育を実現してきたということになります。そして、多様性というのが入っていますね。これは多様な方々と協調して行動するという事で、これには実は海外の方々も含みます。つまり国際協調できる人材を育てたいということです。

こういう形の国際交流を是非 IEEE 広島支部でも進めて頂きたいということで、最後に提案いたします。国際交流というのは各大学で実施しておられます。各大学が中心となって海外の大学とやっています。大きな大学・力のある大学はこれで十分に実施できるのですが、やはり複数の大学で協調して実施したほうが、学生にとってもメリットがあると思っています。そういう意味で、将来的には IEEE 広島支部が主導し、HISS と連携して、各大学の学生が入ってきて共有する場（例えば、国際会議）を提供し、そして海外の大学と交流するという形で進めてもらえれば、先ほど言いました主体性・協調性だけでなく多様性も身につけた学生が育っていくのではないかと考えています。（この件について IEEE 広島支部の支部長を始め理事の方々と IEEE 広島支部会員が議論する場を設けてほしいと願っています。）以上でございます。

■ 平川 正人 先生（島根大学・教授、第 6 代支部長）



今ご紹介いただきました、島根大学の平川でございます。今回の企画について中西先生から最初に依頼を受けたときに、内容的にはこんなものかなと想像しながらお受けしたのですが、一番悩んだのが、実はタイトルです。結果からすると、日本経済新聞のとあるコラムみたいな形に落ち着いてしまったんですけども、

支部と私がどういうふうに関わってきたか、どういうふう考えたか、というところを、お話を聞いていただければと思っています。

まず、初代支部長市川先生のところにいたということもありまして、最初のところからお手伝いはさせていただいていました。役員レベルで関わらせていただいたのは 2001 年から 2002 年、これが一番最初になります。山口大学の粟井先生が支部長をされていたときで、副支部長は角田先生、そのときに庶務幹事をさせていただきました。

（写真を指しながら）一番左が粟井先生で、真ん中が角田先生、一番右が市川先生になります。これは多分、HISS の表彰の場面だと思います。いずれにしても、これが総会のときの写真で、こういうメンバで行っていました。

先程来ありますけども、HISS、これが一番の活動ですけども、この2001年は第3回の大会になります。場所は、中国電力の本社が広島市内のいいところにありますけども、そこで開かれています。基本は年1回の開催になりますが、実は2001年は非常にメモリアルな、メモリアルというか非常に記念すべきというか、ちょっと変わった年でして、実はもう一回、2001年にHISSが開かれています。

先程申しました3回目のHISSは11月だったのですけれども、実は2回目というのが同じく2001年の1月に開催されています。これまでの20回のうち、年2回あったというのは、これが最初で最後だと思います。本来は年内、2000年の間に開く予定だったんですけども、ちょっといろいろ事情があって、2001年にずれこんだ、こういうふうなことです。そのおかげでといいますか、会計年度がIEEEの場合、年で切れますので、年をまたいだときに非常にややこしかったという記憶があります。このときの会場としては、基町高校という、広島城のすぐ隣にある、非常にビッグな高校なんですけども、そこで第2回は行われています。紹介しましたように第3回というのは中電、第1回は体育館ということで、現行では大学で開催することが多くなってきていますけれども、初期の頃はこういうふうに大学の外に出る。高校なんかでも開催されており、高校生にも来てもらいたい、とにかく外に開かれた機会だということが、HISSのひとつの特徴でもあるというふうに思います。

その後、2003年と2004年のときに副支部長をさせていただきました。庶務幹事の方は堀田先生にお手伝いいただきましたし、支部長は広島大学の角南先生、LSI関係で非常に有名な先生です。(写真を指しながら)一番左が角南先生になります。(写真を指しながら)これが総会後の懇親会なんですけども、見ていただくとお分かりのように非常にフレンドリーというか、学会の堅苦しさというよりは、非常にアットホームな、ひとつの研究室の飲み会のような形です。初期のIEEE広島支部の雰囲気を感じ取っていただけののかなと思っています。

その後しばらくは理事という形では関わらせていただいて、あるいは一会員として活動をサポートさせていただいたんですけども、2009年から2010年のところで支部長をさせていただいたおかげで、今ここで話をさせていただいております。副支部長としては船曳先生にお手伝いいただいたところです。その当時、何かというと、これもご記憶の方も少なくないと思いますけども、2009年、実はIEEEの125周年ということで、かなり盛大なセレモニーが開かれました。ロゴもスペシャルですし、そのときに作られた(写真を指しながら)こういう記念品もありまして、まだ使わずにとってあって、先日写真をとったものです。これ、メモ帳ですね。

実はその当時、私が支部長になって、実は非常に悩んで行動していたんです。というのも、2000年当時、Region 10は先程津田先生からもお話ありましたが、会員数が伸びていて、ただ一方で、世界的に見るとほぼ頭打ちということで、この先どうするか。(グラフを指しながら)これ、横軸が時間軸で、縦軸は「活力」と書きま

したけども、非常にざっくり言うと会員数と思って見ていただいてよいかと思います。雛元先生のところから始まって、その後の支部長の先生方のご活躍のおかげで伸びていた。でも全ての企業あるいは全ての組織がそうだと思いますけども、ずっと伸びはしない。どこかで安定期あるいは下降状態に入ります。おそらく、私が引き継いだ、角田先生の後、あのあたりがひとつのピークというか、次にどうつなぐかということを考えないといけないというふうに自分自身では思っていたところでもあります。

ひとつのやり方としては、そこでまた単純に新しい枝を伸ばす、つなぐ、というのがひとつのパターンなんでしょうけれども、先程言いましたように、世界的に見ると頭打ちとなって、日本もそのうち下降気味になると、ある意味で当たり前というか予測されたので、同じような方向に向かうというのはおそらく意味がないということで、悶々としていました。結果として、完全にパワーだけというか、メンバシップだけ見てはやっていけない。で、ひとつ軸を別の方向に展開してはどうかと。(グラフを指しながら) ちょっとわかりにくいので PlayStation のロゴを入れましたが、別に PlayStation が云々というよりは、最初はこの「S」の文字のある平面で学会活動が伸びていった。2009 年あたりから「P」のところ、別の軸を目指して、我々の支部活動は伸びてきたんじゃないかというふうに思っています。なので、その後に堀田先生から始まって、現支部長の中西先生まで、こういうふうな、今までとは違う、量から質に展開した動きが展開されてきていて、私はそういったところにつなげたということで、ちょっとはお役に立てたのかな、というふうに今理解しているところです。

もうひとつの思い出とすると、私が支部長をしている間に、HISS が島根、私の本拠地にやってきました。島根で開催するのは 2 回目なんですけど、(写真を指しながら) これはそのときの写真です。一番左上がキックオフのミーティングで最初に各大学から学生が集まって打合せをしたときのものです。右上がそのときの HISS の取りまとめをやってくれたうちの研究室の修士学生だったんですけども、今は京都の企業に行っています。彼がきっちりまとめてくれました。左下がパネル発表、右下のところは懇親会ですね。初代支部長の市川先生もこのときは参加いただいて、盛大に開かれました。テクニカルプレゼンテーションの件数でいうと、記憶に間違いがなければ、20 回のうちで一番件数が多かったときでもありました。実行委員を務めた学生たちにプッシュしたこともありまして、HISS が終わって、うちの研究室の学生から、「先生、もう疲れました。僕、二度とこんなことはやりたくありません。」と言われました。でも、ギリギリまでやってみる、学生の頃にやってみるという機会って非常に大事だと思うんです。もちろん身体を壊しては元も子もないですが、限界を知るといのは非常に大事だと思っていて、そういった意味で、こういった機会が学生さんの成長につながったのかなというふうに思っています。

ということで、その後も先生方の、あるいはメンバの皆さん方のご支援のおかげで、ここまで広がったということで、これからも IEEE 広島支部あるいは IEEE とも

に歩いていけばというふうに思っています。ちょっととりとめのない話の終わり方ですけども、終わらせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

■ 堀田 昌志 先生（山口大学・准教授、第7代支部長）



ご紹介ありがとうございます。山口大学の堀田と申します。よろしくお願いいたします。

まず、これまで、HISS の話を支部長の方々が色々お話しされたので、まず、ちょっと変わったところで、僕のこれまでの生い立ちから話させていただきます。まず、僕は愛媛県の生まれで、そのまま、大学、大学院を愛媛県で過ごしました。それ

で、教員としてもそのまま在籍はしていたのですけれども、その頃から、IEEE の会員になりまして、僕の場合、マスターを卒業してそのまま教職になりましたので、学位をとらなくてはいけないので、IEEE には学術面で非常にお世話になりました。それで、ちょうど 1999 年の 4 月から、山口大学工学部へ赴任して参りました。

それで、これまでのお話でもあったように、私、大学の教員の始まりが IEEE の四国支部でしたので、先ほどの Petition も IEEE の四国支部の設立にサインをして、サインをしたのに、なぜか設立したときには IEEE の広島支部のほうに移籍していたというような状態になっております。

それで、山口大学の方に移りまして、移ったときに、大学の居室のちょうど僕の隣が、第 2 代の支部長になります粟井郁雄先生でした。それで、粟井先生との出会いが、IEEE 広島支部と関わる一番最初の始まりとなりました。粟井先生は、私と同じ研究分野でして、愛媛大学に所属していた頃からも、学会等でよくお目にかかっておりましたし、会えば、2 人ともお酒が好きなので、お酒を飲む間柄でした。

それで、お酒を飲んだ席で話をしていたときに、広島支部というのがあるということと、HISS というのがあるということをお聞きしました。それで、お話を聞いていて、先ほどから出てきております「学生の学生による社会のため」のイベントのフレーズに共感を受けまして、学生が主体となって運営を行うというところに非常に共感を受けまして、それで下にありますようなメンバーとして、ずっと携わらせていただきました。

最終的には、2011 年、12 年に支部長をさせていただきまして、その後は、何らかの形で、少しばかりですけれども、お役を立てるように活動をしているのですけれども、これまでやって参りました。

それで、ここからは少し参考資料程度で、これまでの HISS 開催を時系列で並べて

みました。最初は広島で開催され、2回目も広島で、先ほどからご紹介があった通りです。3回目が広島で中国電力。(スライド4枚目) 4回目山口、5回目広島、6回目に島根。(スライド5枚目) それで、岡山、広島、鳥取。(スライド6枚目) それで、広島、山口、島根。(スライド7枚目) 広島、岡山、鳥取。(スライド8枚目) 広島、岡山、山口。(スライド9枚目) 島根、そして、明日からの鳥取ということになってきました。それで、これらの HISS の活動を通じまして、普段は見るできない学生達の力を見ることができまして、教員としては、非常に嬉しかった記憶があります。ちなみに、私はここの中の最初のほうは参加できなかったのですけれども、5回のところから、HISS には参加させていただいております。

それで、HISS の話と絡めまして、私がここで話したいことというのは、これまで支部長としても関わって参りましたし、理事や役員としても関わってきましたけれども、そこで問題となったこともいくつかあります。先ほど平川先生も少しお話しされていましたが、日本とアメリカでは、会計年度が異なるという点があります。日本は普通4月に始まって、翌年の3月に終わるという会計年度ですし、アメリカの場合は、普通に、1月から12月になっています。ですから、当然、IEEE の本部からは、12月の締めめで会計を報告してくださいと言われる。ただ、先ほどから言っている HISS の運営は、最初の頃は先ほどお話がありましたように運営されておりましたけれども、やはり色々な財団とか補助金等を取って行ってきたのですけれども、大体の日本の企業・団体は、会計年度は3月締めなわけです。ですから、3月締めですと、どうしても1月~3月に入金されます。採択が決まって、それから、お金が入金されるのが1月以降ですと言われる場合があります。そのために、IEEE に報告するには、会計年度的には次年度にお金が振り込まれる、それと、HISS はもう終わっているのにお金が振り込まれるということがあります。それで、その際、報告にどうかということ色々お話ししまして、副支部長の舟阪先生、会計幹事の岡山県立大学の久保先生、それから庶務幹事の田岡先生、それと IEEE の Japan Council の役員・理事の皆様非常に世話になりました。色々な相談にのっていただきまして、何とか IEEE の本部も納得していただけたということがあります。

それと、私が支部長を行っていた頃にあったこととして、Membership Development Workshop というものを開きました。これは、R10 のほうから、こういうワークショップを1回は必ず開いてくださいということと言われて、それで、持ち帰ってお話をしたところ、岡山県立大の福嶋先生が中心となって、HISS の説明会の際に、Membership Development Workshop を企画してくれたということになっております。また、その際には、企業メンバーの勧誘。これは現在進行中ではあるのですけれども、どうしても企業自身が少ないということもあるということも問題点になっているのかと思います。また、恒常的な HISS の運営の確保。これは、景気にも非常に左右されます。お金の取りやすい年、お金が足りない年などありますけれども、これから先、安定してそれを

続けていこうと思った場合には、恒常的な運営費を確保できるようにしていけたら、というふうに思います。

また、R10の会議の際に、HISSはどのような発表形式なのかを説明しなさい、そして最後に言われたのが、これは何語で発表するの？ということを知員の人に聞かれました。Japaneseですと言うと……。確かに海外の人からすると、そこに出て行って発表することができないということがあると思います。それで、現在、英語のセッションなどもできているということになっていると思います。これからも発展していった欲しいと思います。

最後に、私おいしいところ取りをしてしまったような気がするのですが、私の前まで、皆様が一生懸命働いてこられた業績をいただいた形で、2011年にIEEE R10から、所属支部の広島セクションに対して、2011年IEEE R10 Distinguished Small Section Awardが授与されました。これは、僕が行ったわけではなくて、IEEE広島支部がいただいた賞です。広島支部の皆さんの日頃からのご協力に大変感謝しております。

非常に雑駁な話になりましたけれども、私からの話はこれで終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

■ 石田 賢治 先生（広島市立大学・教授、第8代支部長）



ご紹介いただきました広島市立大学の石田でございます。よろしくおねがいします。

まずですね、私は2013年から2014年に支部長を務めました。HISSも頑張っていましたけれど、それは皆さん同じように喋るだろうということで、私は別のことを喋ろうと思って参りました。

このときの役員がこんな感じで、私はChairをして、Vice Chairが岡山大学の阿部先生、Secretaryが広島市立大学の田先生、今は支部長をされていますけれども、中西先生にTreasurerをしていただいております。大変お世話になりました。

私はSection Congressに参加したんですけれども、Section Congressについて話したいと思います。2014年の8月22日から24日ですかね。アムステルダムです。ちょうど虹がでていたので写真とりましたけれども、こういうときのために撮ったわけではなくてですね、こういうところで綺麗だなと思い撮りました。こういう広々とした会場で開催されました。Section Congressというのは非常に皆さんご存じだと思い

ますけれども、全世界の Section の Section Chair が集まるような会議でございます。

これが Section Congress の Region 10 の会議も同じようなときにありましてですね、これも結構広々とした会議で、コの字型になっていて、これ私ですけど、ぐるっと回って着席しました。これに出席して、結構きっちりされる会議だなと思ったんですけど、出欠をとるんですね。一名一名呼び出されてですね、居るか居ないかをチェックされるという感じでございます。これも Region 10 の会議ですね。この方たちは President の立候補者の方で、Region 10 の中で自分の PR をされたりですね、あるいは、ここで質疑応答があるんですよ。これは非常に面白いとおもいました。私が President になった暁にはこういうのをやりますよっていうのを持ち時間が設定されていて、その中で、座り方もすごい面白くてですね、ぱちっと写真をとってこういうときに紹介できてよかったなと思います。

Section Congress の中でですね、IEEE の取り組んでいる Top Recommendations というのが採択されました。これどうやって流れるかという、各 Section の Section Chair が何票か持っているんですね。その中で投票していくんです。私が行ったときの Recommendation で、トップ 1 にすごいことが書いてありまして、IEEE Digital Library の Member benefit として、フリーアクセスにしましょうと。これがですね、非常にすごいことで、大学関係者と企業関係者の方はご存じだと思いますけれども、今 IEEE Xplore っていうデータベースありますけれども、これはお安くはないですね。かなり高い。毎年上がっています。これがですね、こういう Recommendation であって、フリーまではなっていないと思うんですけど、こういうのに選ばれること自体がすごいなと思います。これは何故かという、全世界にはいろんな Section がありまして、その Section の Chairs が投票するんですよ。その結果がそういうところに出てきていて、すごいのが選ばれるんだなと思いました。

あとは、私が注目したのは、vTools というのがありまして、これはですね、さきほどありましたけれど学会活動、ボランティア活動をサポートするというですね、投票するためのツールもこういうツールの中に含まれているわけです。

広島支部っていうのはですね、ずっと設立以来ですね、役員は投票してですね、ずっとずっと私がやる前くらいまでは紙でした。私もギリギリまで電子投票までやろうとしたんですけど、できなかったんですかね。私の前の堀田先生のときに、電子投票ができるような規約の改正までやっていただいていたいて、私のときにチャレンジしてですね、電子投票できるようにしたんですけども、vTools の使い勝手があんまり良なくてですね、日本語とかが使えないとか。あるいは Dry run ですかね、テストみたいなのがちょっとしにくい状況でございました。

■ 船曳 信生 先生（岡山大学・教授、第9代支部長）



ご紹介ありがとうございます。第9代支部長を務めさせていただきました岡山大学の船曳と申します。この度はIEEE 広島支部さんにおかれましては、20周年ということでおめでとうございます。前支部長としましては、たいした貢献はできなかったんですけども、そのときの思い出を中心にがんばってお話させていただこうと思います。各

先生と違いまして非常に簡単なスライドになっておりまして、現会計幹事の小畑先生から呼び立ていただきまして、あわてて用意したスライドです。何を話すべきかということいろいろそのあと考えたんですけども、支部長時代の思い出を語ればいいのかということで、それをご紹介させていただこうと思います。

前支部長ですので、2年ほど前まででございましたけれども、支部長を務めるにあたりましてとても大事なことは何かというと、やはり支部独自の取り組みであります広島支部学生シンポジウム（HISS）の活性化ではないかということで、そういうことを所信表明でも書かせていただきましたし、それを中心に支部長を務めさせていただきました。その中でどういうことを行ったかと言いますと、先ほど角田先生からもございましたけれども、英語での発表を始めようということで英語セッション、正式には今、英語プレゼンテーションと呼ばれているようですけれども、それを支部長を務めました4年前から始めました。先ほどどの大学でもそうだとおっしゃっていただきましたけれども、留学生が増える。そういった方に発表の場を提供したい。私の研究室にも今18名の留学生がいて、そういった学生を積極的に発表させたいというふうな考えです。どうしても身内の学生さんは英語が苦手ではあるんですけども、そのなかからでもがんばって英語で発表しよう。実際に英語で発表される学生さんもちらほら増えてきておりますので、特にポスターでの発表ですので、こういった人前に立って発表するよりはしきいが低いというふうに思います。さらにはそういったことを通じて、このシンポジウムの活性化ということをお願いしたいと思います。先ほど角田先生からも最後にご紹介がありましたけれども、HISSの場を通じて、この支部の活動を国際化に、あるいは中国地方の大学、中国地方だけではないかもしれませんが、その大学の活動を国際化に少しでも貢献できるというふうに思っております。同時に高校生プレゼンテーション、高校生セッションというものを新設致しました。といいますのは、皆さんご存知だと思いますけれども、昨今の理工離れ、昨今というかもう前から、最近ちょっと持ち直してきているかもしれませんが、理工系離れということが言われております。私どもの学科でも、また学部でもいわゆる競争倍率の低下

が厳しくなっております、いつもその、まもなくそういった入試の時期ではありますけれども、倍率をびくびくしながら見守っているという状況でございます。ですのでこういった HISS の場で主に理工系の、理数系の高校生みなさんに発表の場を提供して、われわれ大学の教員なり学生がそういった発表を聞くと同時に、高校生のみなさんにもわれわれの発表を聞いていただくことで、お互いの理解を深めることで理工系理数系離れを少しでも緩和できたらいいかなというふうに考えて設立しております。ただ現実としては、なかなか高校生みなさんには来ていただきにくくて、ちょっと努力不足もあったんですけれども、最初の年、2校か3校程度だったと思います。やはり、高校生のプレゼンテーションの場合は、積極的に高校に行って勧誘ということが必須だというふうに思います。さらには他支部でございますけれども、この中にこういうことをやっていますのでと声をかけてくださいということをお願いをしまして発表をしていただきました。

2つ目の思い出としましては、支部功績賞、これは設立当初からあったことと思うんですけれども、それを通じていろいろと会話をしたというところがございますけれども、そういった思い出がございます。設立しましてから最初に雛元先生が受賞されて、そのあとしばらくどなたも受賞されなかったという状況がございました。これは実は先ほど平川先生からもご紹介がありましたけれども、私が平川先生のもとで副支部長をしていた時代でございますけれども、そんなに何年間なかった理由という大変失礼なんですけれども、市川先生が初代支部長ですけれども、なかなか功績賞を受賞されることを承諾していただけなかったということがございまして、さすがに、別に功績賞は支部長だけに渡すものではないと思うんですけれども、やはり初代支部長がいただかないなかで、次の方というのはやっぱり難しいという意見が強くなりましたので、なんとか市川先生にいただいていたかなきゃいけないということで、副支部長時代ですけれども平川先生と相談させていただきました、思いつきましたのが第1回 HISS の実行委員長であります神成さんですね、今日本電気でマネージャーをされているということですので、この方と抱き合わせで受賞していただくと。ここは初代支部長と初代 HISS 実行委員長が両方同時に受賞されないとだめですということで強くお願いしまして受賞していただきました。そのあと、下が支部長時代でございますけれども、そういったことをしたということもありませんので、順調にいきましょうか、毎年、支部長の先生に功績賞を授与することができました。土屋先生、角田先生ですね。角田先生からは私が支部長だから受けていただいたとお聞きしまして、よかったよかったというふうに思っております。

最後の思い出と言いますか、もうひとつ尽力をしてみましたことは、理事会の活性化でございます。IEEEに限らず、他の学会もそうだと思うんですけれども、基本的にはボランティアの世界だと思っております。無償どころか自前のお金を払ってですね、こういった会に参加して、忙しい業務の合間を縫って、何の見返りも無い仕事を一生

懸命していただく。ですから、非常に優秀な方の貴重な時間を使って、非常にめずらしいといいますか、奇特な世界だと思うんですけれども、ですのではおさらやはり、そういった方に対して気持ちよく仕事をやっていただくということが大事じゃないかなということで、私が副支部長のときもそうなんですけれども、平川先生と相談しまして、理事会では必ず講演会をしましょう、あるいはそのあと必ず懇親会をしましょうということで、理事会はいろいろ仕事がありますけれども、そのあと楽しく過ごして、理事会を楽しみにしていただくと、実際そうだったかわかりませんが、そういうことを心がけて参りました。最後にひとつ忘れたんですけれども、理事会をですね、当時中国地方の国立大学と広島市立大学だったと思うんですけれども、やはり HISS の活性化のためにも広島支部の活性化のためにも、もっと人界を拡大したほうがいいのかということで、岡山県立大学と福山大学の方にも理事会に入っていただくといった経緯がございました。岡山県立大学さまからは来年度大久保先生が支部長になられる、その意味でも拡大は成功であったかなというふうに思っております。以上ざっぱくな話ではございましたけれども、ご清聴ありがとうございました。

■ 中西 功 先生（鳥取大学・教授、第 10 代支部長）



ご紹介いただきましてありがとうございます。現支部長を務めさせていただいております、鳥取大学の中西です。私の方は歩みと言いましょか、今でするので、歴史を語るという形ではないのですが、現在の広島支部をご紹介させて頂きたいかと思います。

これは開会式の時にも示しましたが、これは現在の役員と理事の方々です。

この辺は毎年同じようなところですが、活動報告としては、こういった講演会を開いているわけですが、私の年度としてはこの 20 周年の、今日の正にこのときですが、これが例年と違うところかと考えております。それから、これまでのご発表にもありましたが、私の年度では平川先生、堀田先生に対する功績賞であったり、それからこれは広島支部独自の取り組みですが、学生の発表支援を行うということで、国際会議で発表した学生に対してこういった支援を行っております、去年も 1 件、今年は未だ途中ではありますがすでに 1 件の支援を行っております。

それからこれが一番私の年度では大きなエポックになるのかと思いますが、広島 Section Student Branch というものを設立いたしました。実際には今年の 8 月に本部から承認されたんですが、その承認を待ちまして第 1 回目のキックオフのミーティングを 10 月の 7 日、8 日にですね、一泊二日で、これは鳥根大学と鳥取大学の共同の

Student Branch という形になります、そういうものを Section Student Branch というのですが、そういった形で島根と鳥取大学で作りましたので、その中間地点の大山で合宿しましょうということで、費用の方は JC 様の方にも半額援助いただいて開催しております。IEEE とか Student Branch に関する学習会を行ったり、その後役員を選出したり、今後の運営方針なんかも協議して、翌朝は、折角ですので、全員で大山ですね、登山して、(大山登頂の写真を示しながら) これは分かりにくいかと思いますが山頂での記念写真となっております。1700m でしたか、私は日頃の不摂生がたたき、登りは良いのですが、帰りはボロボロになりながら降りてきた記憶があります。まあそういったことで、以前からは広島支部には山口大学にですね Student Branch が一つだけあったのですが、私の方が支部長となって、課題としてはもっともっと作らないといけない、津田先生のご講演にもありましたので、かといって独立した Student Branch ができないという状況で、島根と(神崎先生と)私の方で、後、本学の横田先生にもご協力いただきまして、広島 Section Student Branch というものを設立いたしました。

後、これもこれまでの先生方、支部長の方々が報告されておりますが、私の方が行ったこととしては、環境の整備ですね、船曳先生のところでは例えば自費で参加ということがあったかと思いますが、私もこれまでの幹事や理事の時にはどうしても出張できないときはもう自腹を切って参加してたんですが、例えば JC の理事会とかでお聞きしますとどうも皆さん、他の支部では自腹を切ることはない、必ずこういった学会のところに出たときは、もし所属から支出されない場合は必ず理事会や、例えば JC もそうですが、補填と言いますか、補助を行っているという情報がありましたので、開けてみると広島支部だけがそういう自腹を切らざるを得ない状況があるということでしたので、もう早速そういった場合は必ず支部の方からですね、補助するというようなことを見直しております。それから、また、今日も(支部旗を指さしながら)こちらの方にいろいろ飾られていますが、(一部がはがれている部分を示しながら)はずれてきて申し訳ないのですが、支部の旗とかバナーですね、バナーの方は玄関の方に設置しております、そういったものをできるだけ作って、やはり海外の活動とか見ておりますと、写真とか見ておりますと、必ずこういった旗をバックにして、どういった活動であるかをアピールされておりますので、我々も是非こういった旗を作ったりしてアピールしていこうと行いました。

それから、これは先ほどの津田先生とかのお話しとかにも少し出てきていますが、そういった試みの成果かも知れませんが、昨年 R10 では第二位の投票率を実現したということで、まあこれはインセンティブ、2 万円か 3 万円ぐらいのインセンティブをいただいております。それから今年は、そういった意味で、ゴールドメダルをですね、頂いて、これも R10 の中では 15 支部ということを知っておりますが、そういった成果に結びついているかと考えております。(お酒のラベルが並んだスライドを示しな

がら) これはこれまでの皆さんの発表の中にも出てきたのですが、理事会の中での親睦、船曳先生言葉を借りれば活性化ということなんですが、必ず理事会を開いたときには懇親会を開いて、偶然ながらこういった日本酒がお好きな先生方がいらっしゃいましたので、必ずこういった日本国中の銘酒を飲むような機会を設けて親睦を図っておりました。ついながら、理事の中には瀬祭先生という、私が勝手に付けてしまいましたけれど、そういったあだ名が付いてしまった理事の方もおられました…。はい、後はまあこれまでの方の発表にもありましたけれど、JC ですね、Japan Council の中での理事会出席であったり、それから、これがそういう意味では少しアピールしないといけないのかも知れませんが、R10 のヒストリーブックというものが発行されるということで、そこへの投稿であったり、後、R10 の中でのニュースレターには必ず毎回トピックスを見つけてですね、投稿するように心がけていました。後は、日本で開かれるこういった国際会議であったり、催し物、イベントに関しては理事・役員を派遣するといったことも行って来た、実績になるかと思えます。後、R10、先ほど石田先生の中で Section Congress の紹介がありましたが、R10 の中での毎年ミーティングがありますので、そういったところにも出席したり、それから私の時にも 2017 年にオーストラリアのシドニーで Section Congress が開かれましたので、こういった場でも活動を行っております。

はい、最後ですが、これは津田先生のご講演にもあつて課題になる訳ですが、SYWL ですね、Student、Young Professional、それから Women、それから Life Member という、そういった課題が本部でも R10 でも話題になっているわけですが、Student に関しては逆に広島支部の方は、HISS ですね、行っておりますので、先駆的であったりする訳ですが、それを除いた YWL というのが未だ、課題でして、ぜひ、まあ近いところでは W ですね、Women の方の設立なんかもですね、次期、これは私の代にはないので、次期理事会に送ることになるので軽々に言うと失礼になるのですが、そういったところをまずは目指していけないかと考えています。もう一つは、これも先ほど言いましたように広島支部だけになっているのですが、実は日本国中には電気・情報関連学会ですね、電気学会とか電子情報通信学会、情報処理学会とか、そういった学会との連携のですね、大会が多分日本国中で行われているのですが、中国地方では中国支部大会という名前になるんですが、その中国支部大会と連携していないのは実は日本の中では広島支部だけです。他の支部はすべて連携しておりますので、その一つの要員が、同じような次期に HISS を、学生シンポジウムを開いていますので、なかなか連携できていないというのが多分あるかと思うのですが、私の代で少しその部分を解決しようかと動きかけたんですが、なかなかやはり先ほど申しました HISS との関係で両方を実現するというのは難しい状況でして、この辺りは少しやりかけたところで終わっておりますので、今後の課題として挙げさせていただきました。以上で私の方の講演とさせていただきます。ありがとうございます。

■ 質疑応答

[津田 JC 委員長]

どうもいろいろとありがとうございました。大変勉強になる発表でした。それで今は Japan Council の立場なのですから、いろいろ問題点をお持ちだったので、一番 JC に期待されるというポイントがあれば、ぜひご相談いただければなど、で、一つ見たのは財政的な問題があるんですけれども、JC もいろんなことに対してお手伝いさせていただいているんですが、ただですね、JC として大きな流れを作っているんで、財政をとるにしても、従来からずっとやっているようなことにずっと長い間補助をやり続けてくれというのは非常に難しい、というんですね。ですからその辺は上手く考えて、従来のアクティビティで幅を広げるとか、そういう形で、そのために投資的な費用がいるって言って頂ければ、それはそういう形で JC としてもお手伝いしていくという基本的な態度はありますので、例えば、そういう財政面の話であれば、戦略を持って JC に言っていただければ、お手伝いすることもできるかと思います。後は、まだ他にいろいろあれば、例えばですね、先ほど中西先生から話もありましたけれど、MAW とかをやる時には結構稼働がかかるんですけども、その辺も JC で経験持っている人たちも沢山いますし、言っていただければ、喜んで基本的にはお手伝いするという態度は持ってますので、是非問題あればどんどん挙げていただく、あるいは、問題じゃなくて新しい提案があればどんどん挙げていただく、そういうことをやっていただければな、と思います。

[中西支部長]

ありがとうございます。ご質問というより支部への応援という、エールというような感じだったかと思いますが、何か歴代の支部長の方々の中でもありますでしょうか？ 特にございませんでしょうか？ 私の方からというのも変ですが、昨年度 Section 支援費というのが削減されて、無くなって、それは各支部の余剰金があるので、一旦は特別なことがない限り、支援されないということになったんですが、今年は復活していただいて、そういった面では安心してはるんですが、その時にあったのが、もし支部の方で余剰金を貯める必要はないと、もしお金に困ったら JC がちゃんと、責任とは言わなかったかもしれませんが、面倒をみると、そういう言葉を頂いて、多分これまでの支部としては自分たちの予算は自分たちで守らないと。確保しないと誰も助けてくれないというのがあったんで、多分、先ほどの「自腹」の話もそうなんですけど、皆さん自腹を切っても、できるだけ支部の予算を減らすことをしないように、で、結果としては年々貯めていただいて、結構な形で余剰金があったんですけど、逆にそれは外から見るとお金を貯めてるだけで、毎年毎年お金下さい、ただ、それを貯めてるだけ、というふうに見えてしまう、だからそこは先ほど以前に JC 理事会で、たぶん津田先生だったと思うんですが、それはもしお金が足りなかったら、JC が面倒をみ

るんですよ、という、そういう考えを示して頂いたんで、今年とかもそうなんですが、結構できるだけ、必要なところは使っていきましょうというふうに変更してますので、また、特別なイベントとか企画するようでしたら、また JC さんの方の支援をお願いしたいなと思います。先ほど言った Student Branch のキックオフも JC さんの方に助けていただいていますので、そういった形で活動していれば良いかなと思っています。その際はよろしくをお願いします。

[神崎庶務幹事]

司会の段取りが悪く申し訳ありません。時間を大幅にオーバーしてしまいましたけれども、20年の歩み、ここまでにさせていただきたいと思います。